

焼岳の噴火警戒レベルを 2 へ引上げ

本日（25 日）05 時 50 分に焼岳の噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）に引き上げました。

概要や警戒事項等を別添のとおりお知らせいたします。

問合せ先：地震火山部 火山監視課 碓井、今野
電話 03-3434-9119

焼岳の噴火警戒レベルを2へ引き上げ

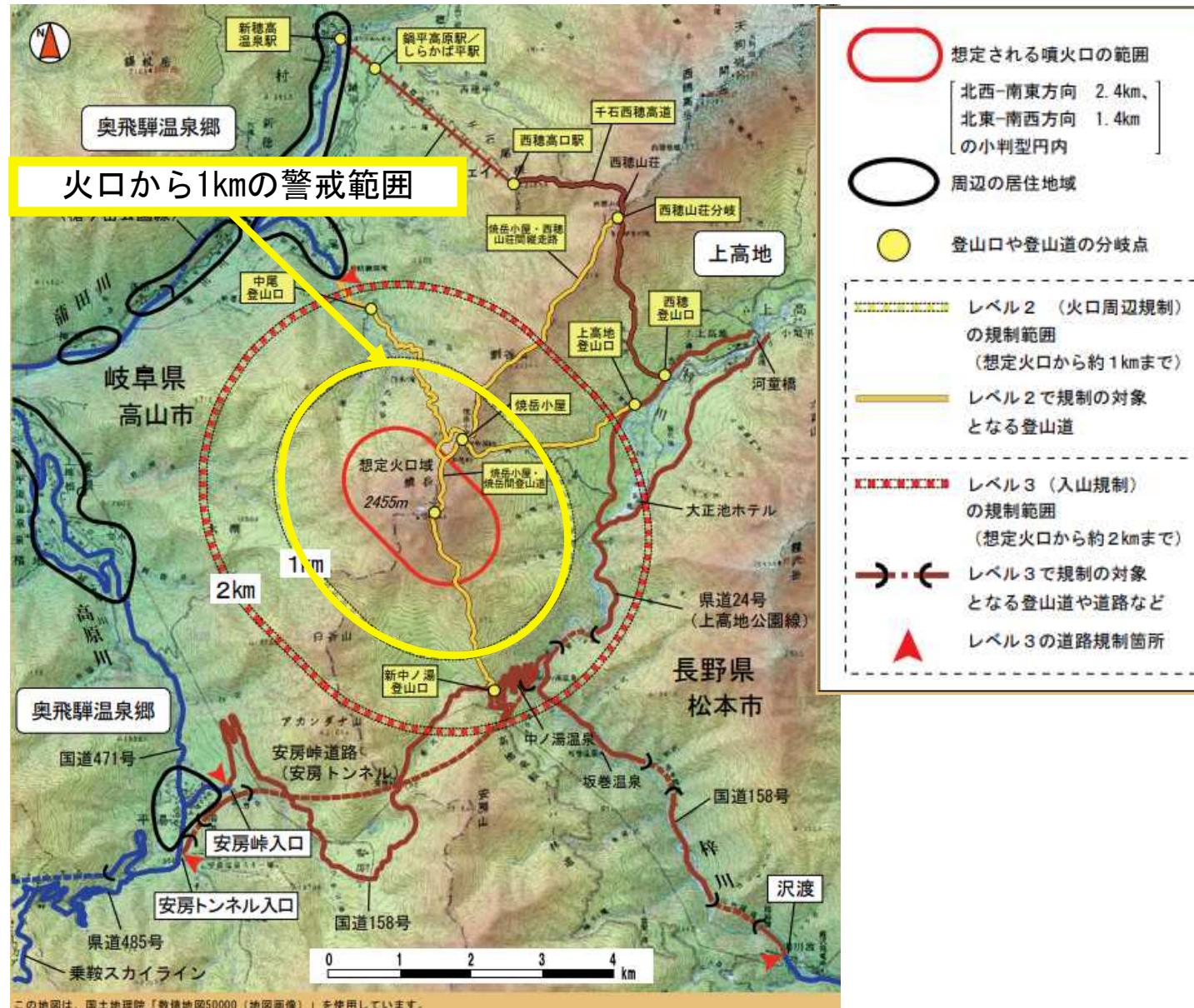
情報発表時刻 (発表官署)	令和8年1月25日05時50分 (気象庁)
情報種別	噴火警報(火口周辺)
噴火警戒レベル	1(活火山であることに留意)から2(火口 周辺規制)に引き上げ
火山活動の状況	焼岳では、山頂直下が震源とみられる火 山性地震が増加しています。 山体浅部の膨張を示す傾斜変動がみら れています。

防災上の警戒事項

- 想定火口域から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。
- 噴火時には、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。
- 地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

焼岳の位置および警戒範囲

焼岳 噴火警戒レベルに対応した警戒範囲および防災対応



火山の位置



焼岳[やけどけ]
Yakedake

北緯 36° 13' 37"
東経 137° 35' 13"
標高 2,455m
(三角点・焼岳)

焼岳の活動状況

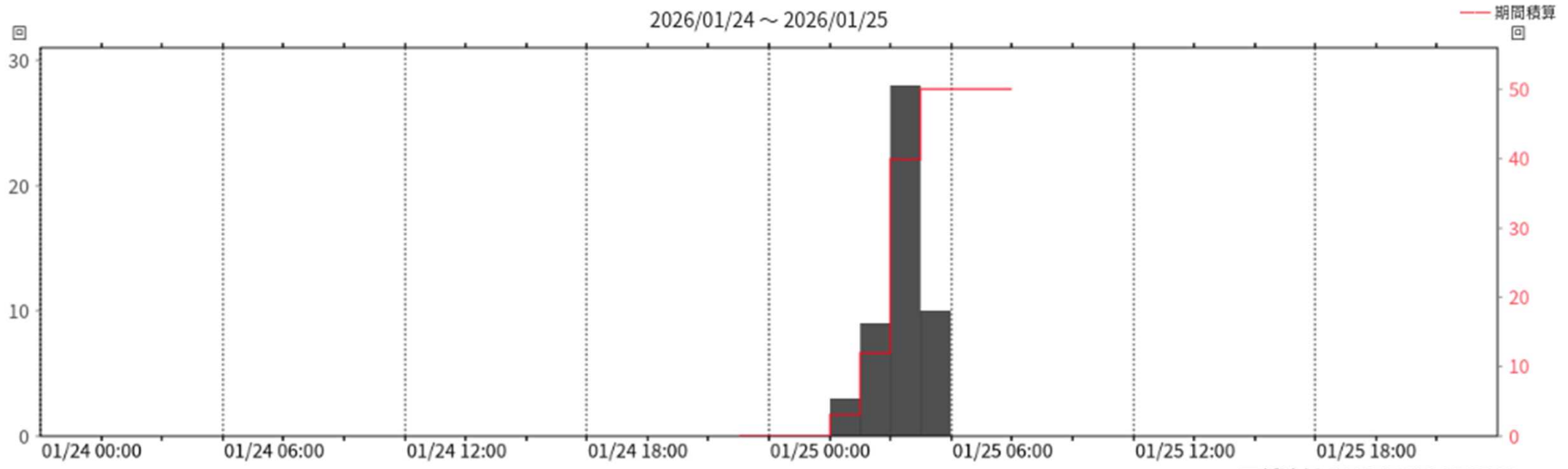


図1 焼岳 山頂付近の時間別地震回数及び合計地震回数
(2026年1月24日～25日)

25日2時頃から山頂付近を震源とする微小な火山性地震が増加しています。

焼岳の活動状況

焼岳

2026/01/18 07:22~2026/01/25 07:22

NEup
EXP.

0.1 μ radian
0.1 μ strain
50 degree
50 hPa

50 mm/h
50 count/h

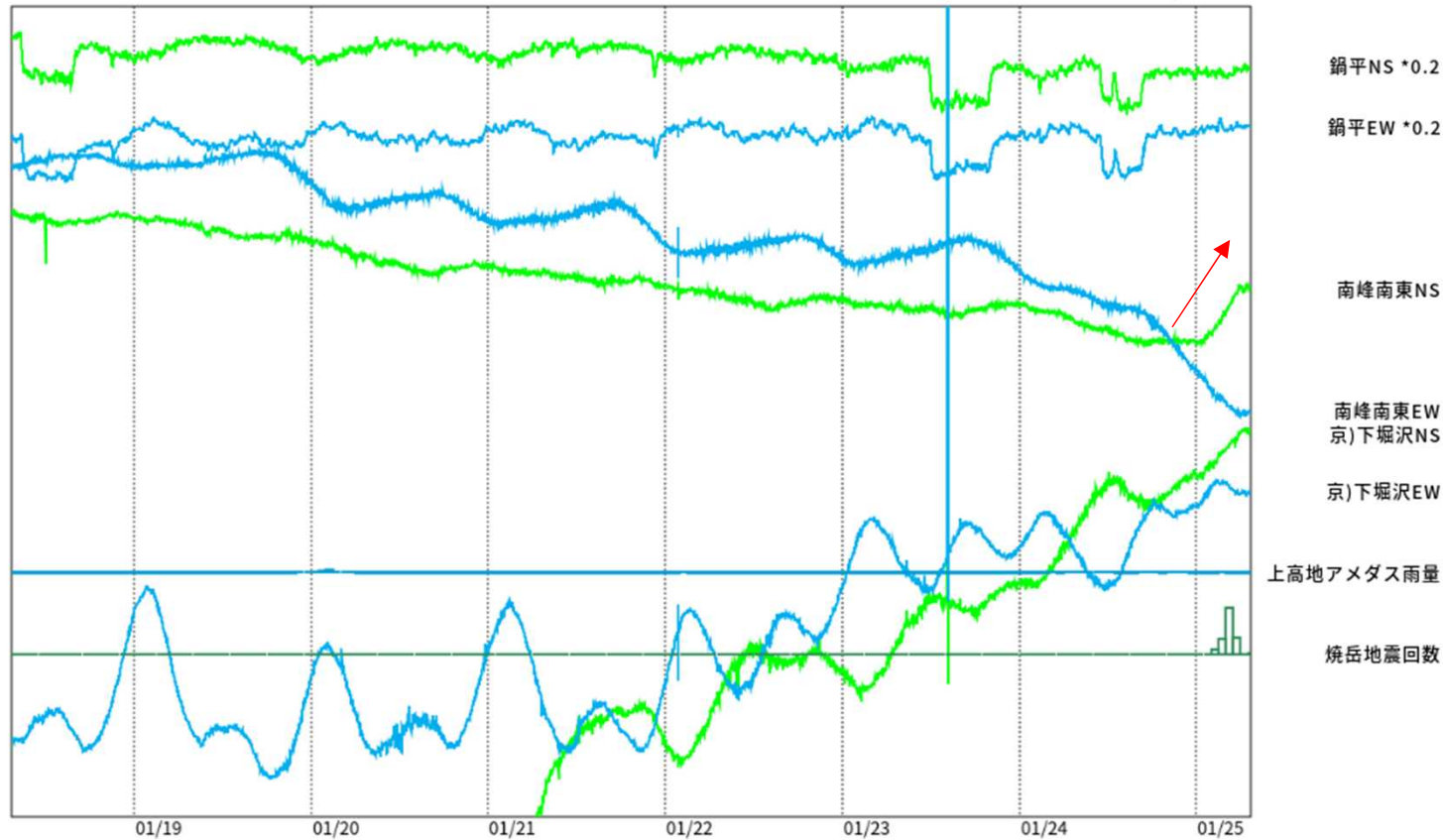
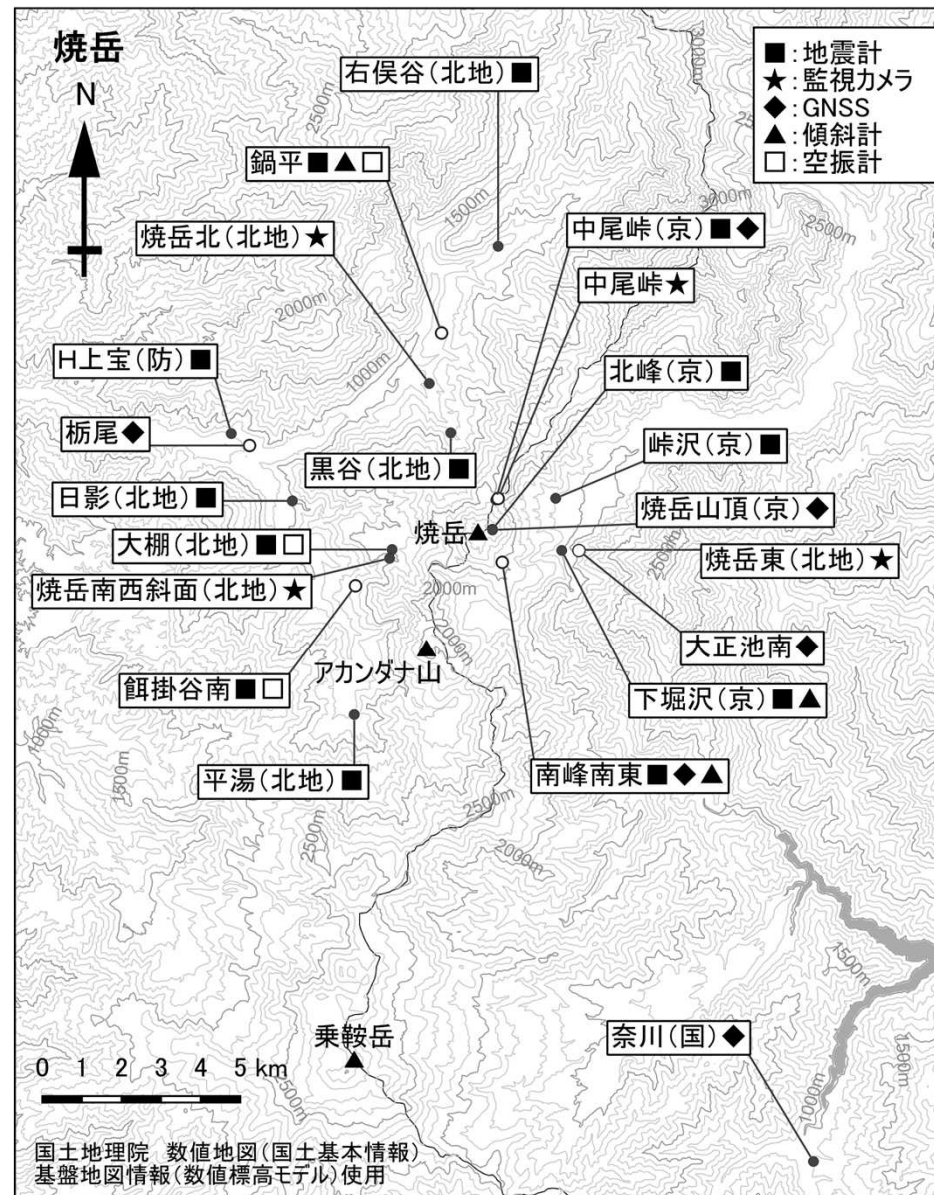


図2 焼岳 傾斜データ(2026年1月18日~2026年1月25日)

- 山頂浅部の膨張を示す傾斜変動がみられています(赤矢印)。

焼岳の観測点配置図



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所、(北地): 北陸地方整備局、(京): 京都大学

発表した情報などについて

○発表した情報

- ・ 噴火警報・噴火速報の発表状況

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=volcano>

- ・ 降灰予報

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=ashfall>

- ・ 火山に関する情報の発表状況

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/volinfo/volinfo.php>

○情報の解説

- ・ 噴火警戒レベルの判定基準

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/keikailevelkijunn.html

- ・ 火山別に設定された噴火警戒レベルの解説
(リーフレット)

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level/keikailevel.html>

- ・ 噴火警報・予報の説明

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/volinfo.html>

- ・ 噴火警戒レベルの説明

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/level_toha/level_toha.html

- ・ 火山に関する情報や資料の解説

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/vol_know.html

○火山災害から身を守るには

- ・ 火山登山者向けの情報提供ページ

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/activity_info/index.html



- ・ 火山災害から命を守るために
(内閣府 防災情報のページ)

https://www.bousai.go.jp/kazan/eizoshiryo/tozansha_shisetsu.html

- ・ 気象庁防災情報X(旧Twitter)

https://x.com/JMA_bousai



焼岳の噴火警戒レベル判定基準

令和2年3月27日現在

レベル	当該レベルへの引上げの基準	当該レベルからの引下げの基準
5	<p>【居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が切迫あるいは発生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・溶岩ドームの崩落による火砕流、融雪型火山泥流（積雪期）の切迫あるいは発生 ・居住地域に溶岩流が切迫 	各レベルに該当する現象が観測されなくなり、火山活動の低下が認められた場合には、レベルを引き下げる。
4	<p>【居住地域に重大な被害を及ぼす噴火の可能性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マグマの貫入を示唆する規模の大きな地震が多発 ・マグマの上昇を示す顕著な地殻変動 ・溶岩ドームの形成成長又は溶岩の出現位置によって溶岩流出 	
3	<p>【想定火口から概ね2 km 以内の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想定火口付近の浅部を震源とする火山性地震の急増、規模増大（レベル2よりも回数多あるいは規模大） ・想定火口付近の浅部の膨張を示す明瞭で急激な傾斜変動 ・振幅の大きな火山性微動が連続的に発生、もしくは頻発 ・浅部の低周波地震の多発 ・噴気活動や噴気地帯の熱活動の更なる高まり <p>【想定火口から概ね1 km 以内の範囲に影響を及ぼす噴火の多発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・噴火の噴出物に明らかに新鮮なマグマ性物質が含まれており、マグマ噴火の可能性があると判断した場合 <p>【想定火口から概ね2 km 以内の範囲に影響を及ぼす噴火の発生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・噴火が発生し、大きな噴石が想定火口から概ね1 km を超え2 km まで飛散 ・噴火が発生し、泥流の発生（その影響範囲が想定火口周辺に留まり、居住地域には達しないと判断した場合） 	左記の条件を満たさなくなり、火山活動の低下が認められた場合には、レベルを引き下げる。
2	<p>【想定火口から概ね1 km 以内の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想定火口付近の浅部を震源とする火山性地震の増加 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 任意の24時間で50回以上又は10日間で100回以上 ・下記の観測項目で複数項目が該当する場合 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 上記の基準に達しない程度の浅部を震源とする火山性地震の増加 ➢ 想定火口付近の浅部の膨張を示す地殻変動 ➢ 火山性微動の発生 ➢ 噴気活動の活発化、噴気地帯の拡大や出現 <p>【想定火口から概ね1 km 以内の範囲に影響を及ぼす噴火の発生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・噴火が発生し、大きな噴石が想定火口から概ね1 km 以内の範囲に飛散（想定火口内に影響する程度の噴火を含む） 	左記の条件を満たさなくなり、火山活動の低下が認められた場合には、レベルを引き下げる。
<p>（レベル1の火山活動の状況）</p> <p>【火山活動に若干の高まりや異常が認められる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火山活動や地震活動に変化がみられたり、山体のわずかな膨張が認められたりする。状況によっては、想定火口内の過去の活動火口や現在の噴気地帯の周辺で火山灰や泥の噴出等（この範囲に入った場合には生命の危険が及ぶ）が見られることがある。 <p>【火山活動は静穏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山体の膨張を示す地殻変動が認められず、噴気の高さは概ね100m未満、火山性地震は1日平均数回で推移する。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ここでいう「想定火口」とは、過去の活動火口及び現在の噴気地帯の位置を包括する範囲とし、北西－南東方向に2.4km、北東－南西方向に1.4kmの小判型の領域とする。 ・これまで観測されたことのないような観測データの変化があった場合や新たな観測データや知見が得られた場合はそれらを加味して評価した上でレベルを判断することもある。 ・レベルの引上げ基準に達していないが、今後、レベルを引き上げる可能性があるとして判断した場合、「火山の状況に関する解説情報（臨時）」を発表する。また、現状、レベルを引き上げる可能性が低い、火山活動に変化がみられるなど、火山活動の状況を伝える必要があると判断した場合、「火山の状況に関する解説情報」を発表する。 ・発見者通報で現地での異常が発見された場合には速やかに火山機動観測班を派遣し、現象の確認を行う。 ・火山の状況によっては、以上の現象が観測されずに噴火する場合もある。レベルの発表が必ずしも段階を追って順番通りになるとは限らない（下がるときも同様） 		